

研究課題名：

インフルエンザ・COVID-19 症例組織検体を用いた空間オミクス解析研究

研究の目的と方法：

インフルエンザや新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、感染者の多くは自然緩解する予後良好な呼吸器ウイルス感染症ですが、高齢者等のハイリスク者では重症化し、致命的経過をとる場合があります。このような致命的な経過をとる重症呼吸器ウイルス感染症の発病機構にウイルス感染と宿主応答がどのように相互作用しているのかについては、まだ十分に解明されていません。

本研究ではインフルエンザや COVID-19 で亡くなった方の組織検体を空間オミクス解析することで、ウイルスが感染した細胞や、増殖したウイルスの特徴、ウイルス感染に対する宿主応答の特徴を解析することで、これらの呼吸器ウイルス感染症の重症化の機序を明らかにし、インフルエンザや COVID-19 の重症化の予防や治療に役立つ知見を得ることを目的としています。本研究によって予防法や治療法開発などの感染症対策につながる重要な知見が得られることが期待されます。感染研感染病理部に保管されている全ての検体は医療機関から送付される際に匿名化されており、個人の特定は出来ません。また、分担研究機関に検体の一部を送付する際には、さらに研究用の番号を付与し、個人の特定が一切できないように十分に配慮します。研究の成果が学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることは一切ありません。

研究の対象者及び対象期間：

2023年7月までに入院医療機関を通じて感染研感染病理部に病原体検査のために検体を送付された患者さん

研究に利用する試料・情報：

病原体検査のために検査を依頼した医療機関から感染研感染病理部に提供された組織の残余検体（感染研に送付時に個人が特定されないように匿名化されており、年齢、性別、身長、体重、基礎疾患・既往歴、飲酒・喫煙歴、発症から死亡までの日数、主要な臨床症状、インフルエンザウイルス型・亜型（インフルエンザの場合）、SARS-CoV-2 系統（COVID-19 の場合、不明な場合は感染年月）、組織切片のウイルスコピー数／内因性コントロールコピー数、重複感染病原体の有無、上記が有の場合の病原体名、病理組織形態学的所見、免疫組織学的所見を含みます。）

研究期間：

2023年9月5日～2025年3月31日

研究組織：**【代表研究機関】**

国立感染症研究所

研究代表者：感染病理部 部長 鈴木 忠樹

担当業務：検体の収集・病理組織解析

【分担研究機関】

機関名	所属・職位	研究責任者名	担当業務
東京大学大学院新領域創成科学研究科	メディカル情報生命専攻生命システム観測分野 教授	鈴木 穰	空間オミクス解析
東京大学医科学研究所	感染・免疫部門 ウイルス感染部門 教授	河岡 義裕	ウイルス学的解析

試料・情報の管理について責任を有する者：

国立感染症研究所 感染病理部 部長 鈴木忠樹

お問い合わせ先：

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
試料・情報が本研究に用いられることについて、患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、対象となる患者さんが入院した医療機関の担当医を通じてお申出ください。

なお、成果の発表後は、研究対象からの除外に応じることができません。

代表機関連絡先

〒162-8640 東京都新宿区戸山 1-23-1

国立感染症研究所 感染病理部 部長

鈴木 忠樹（研究代表者）

TEL 03-5285-1111 FAX 03-5285-1189